

下水汚泥のコンポスト化施設技術マニュアルに関する共同研究

全体期間

1997.9～1998.6

本文101P～105P

(目 的)

下水道の普及に伴い発生する汚泥量は年々増加し、平成5年度において固形物量ベースで156万トン／年に達している。その多くが埋め立て処分されているのが現状であるが、近年、処分地の確保はますます困難になっており、下水汚泥の処分対策は各自治体にとって重要な課題となってきている。

下水汚泥のコンポスト化技術は一時期盛んに取り上げられたが、製品の流通・販売や施設の建設費等の問題で、その後なかなか普及しない状況にあった。そのような中で、汚泥処分の一手法として汚泥を廃棄物ではなく資源として考え、緑農地へ「コンポスト」として有効利用を図ることでのりサイクルを推進しようとの動きが、見直しされはじめてきている。

しかしながら、コンポストを計画するに当たり、具体的な検討項目、検討手法について体系化した資料が少ないというのも事実であり、コンポスト技術に関心を持っている自治体にとって、導入しやすい状況が整っているとはいえないのが現状である。

本共同研究は、このような状況を踏まえ、コンポスト化計画の策定手法や経済性、また供給側、需要側の問題点等を整理・検討して、下水汚泥のコンポスト化に関する技術マニュアルをまとめることで、効率的な施設計画及び運営を図るための指標を示すことを目的に行ったものである。

(結 果)

下水汚泥のコンポスト化を計画するにあたり考慮すべき点や、その運営に必要な流通・販売に関する事項を、コンポスト化施設採用自治体へのアンケート結果等も交えてマニュアルにまとめた。マニュアルの構成を章別に表すと以下のようなになる。

- 第1章 総 則
- 第2章 概 論
- 第3章 コンポスト製品の普及
- 第4章 計 画
- 第5章 設 計
- 第6章 維持管理
- 第7章 他原料との融合コンポスト
- 第8章 コンポスト化施設仕様書

この他にコンポスト化施設のモデル設計例アンケート調査結果や、共同研究メーカーの納入実績例を資料編として整理した。

共同研究者：(株)荏原製作所、(株)クボタ、(株)栗本鐵工所、(株)西原環境衛生研究所、日本ガイシ(株)、
(株)日本製鋼所

研究担当者：前田 正博、長谷川 隆之、永松 真一

キーワード

コンポスト化、製品の流通・販売、施設の計画・設計手法